



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.9.25 No. 3284

## 組織絶滅粉碎、闘う方針確立へ 第17回定期大会 に向けて



十月七日・八日、第十七回定期大会が開催される。

清算事業団闘争に対する今秋闘争終結策動、動労千葉根絶攻撃、そして、自衛隊海外派兵・天皇制攻撃の渦中で開催される今回の大会は、あらゆる意味で、国鉄労働運動の未来、動労千葉の未来のかかつたきわめて重要な大会である。全組合員の議論を尽くして断固たる闘いの方針を確立しよう。全組合員の結集を訴えます！

### 清算事業団闘争の完全勝利を！

大会で確立すべき第一の闘いの方針は、清算事業団闘争に圧殺に向けた様々な策謀を粉碎するために、組織の総力をあげて総決起することである。政府自民党は、「四・一解雇」を乗り越えて不屈に闘いぬく清算事業団労働者の闘いが、自らの足元を掘り崩しかねないことを敏感に感じとり、一刻も早く闘争を終結させようとして、連合、社会党右派、中労委等をつかつて、国労を「今秋闘争終結」にひきずりこもうとしている。国労中央

の動揺を見すかして、清算事業団闘争をつかつて国労の路線的変質・分裂・破壊を画策しているのである。

しかも、「和解」の前提条件は、「分割・民営化の容認」「労使共同宣言の締結」「全労協からの脱退」「四・一解雇を認めること」だということである。「和解」などと言つて、身ぐるみ脱いで屈服せよ、と国労に迫っているのだ。

しかし国労中央は、これに対し断固として闘うどころか、清算事業団闘争が「JR体制」粉碎へ向けたカギを握る闘いであることを見ることができず、逆にこれを「重荷」として、右派グループ、革同が中心となつて、「闘争終結願望」「政治決着・和解路線」への埋没をより深めている状況である。

まさに、清算事業団闘争は、不当解雇から半年、完全勝利へ向けて新たな一歩を踏み出すのか、勝利の地平をこじあけながら、一敗地にまみれてしまうのか、重大な岐路に直面していると言える。

北海道・九州を中心とする清算事業団労働者は、このよくな唾棄すべき国労中央の屈服にもかかわらず、長期闘争

を辞さぬ不屈の「自活体制」を築きあげている。われわれは、「激戦激闘の四カ月」の勝利の教訓を今一度全組合員のものとして、清算事業団労働者の決起に込め、新たな決意で清算事業団等に総決起しなければならぬ。

### 動労千葉根絶攻撃を粉碎しよう！

大会で確立すべき第二の闘いの方針は、エスカレートする動労千葉根絶攻撃・「JR体制」粉碎の闘いに 総決起することである。

三月ストを口実とした、一四一名に対する不当処分、二千万円の損害賠償攻撃は、動労千葉のストライキがJR当局に与えた打撃の大きさを示す敵の悲鳴である。また、この攻撃が、無理に無理を重ねた矛盾だらけのものである

ことも、この間明らかにしてきたとおりである。

しかし、ただひとつ明らかなのは、JR当局は、明確に動労千葉は根絶・絶滅以外にないという判断にたつたということである。職場を監獄同然の状態におき、一切の組合活動を圧殺する攻撃をはじめ、来年3月ダイヤ改に向けた「業務移管」の策動、組合事務所や宿舍の明け渡し攻撃、強制配転の固定化・再配転など、JR当局は、JR総連と結託し、手段を選ばぬ攻撃にでている。

これは、「JR体制」の末期症状である。われわれは、七五〇の団結を強固にうちかため、組織をあげてこの攻撃をうち破らなければならない。この秋われわれは、再び、清算事業団闘争勝利、動労千葉根絶攻撃粉碎のために、ストライキを含む断固たる闘いに決起する決意であ。(つづく)

### 第十七回定期大会

十月七日十三時～八日

館山国民休暇村にて

(館山駅よりバス 約8km)

集まろう、議論を持ちよう、